

すが、光永さんらの人柄に引かれ、「特定技能」として再来日したスタッフもいました。

新鮮でおいしいベビーリーフを作り出す「みっちゃん工房」には、心温かくほっこりする、人と人とのつながりが育まれていました。



安全で安心な葉野菜が育っています

## 広々とした園庭でのびのびすくすく

田園の中にたたく第五保育所から、元気な園児たちの声が聞こえてきます。同所は熊本地震の影響を受け、3年前に新設移転しました。

広い園庭には外遊びを楽しむ園児たちの姿があり、「あいさつを大切にできる子どもになってほしい」と梅木美賀園長(54)は話します。

おいしい手作りの給食を食べ終えたばかりのみんなは、元気いっぱい。撮影後、「ありがとうございます!」と立派なあいさつが返ってきました。お昼寝でいい夢見てね。

## 谷川地区の布田川断層帯

谷川地区に、2018年2月に指定された国の天然記念物「布田川断層帯」があります。民家の敷地内に現れた「共役断層」と呼ばれるV字型の断層です。

家屋跡前を横断する長さ約40メートルの「左横ずれ断層」は、縦ずれ変位の最大値が約70センチ。また、宅地を斜め

に切ったように走る「右横ずれ断層」の長さは約35メートルで、縦ずれ変位の最大値は約40センチです。左横ずれ断層は宅地の西側に残る納屋2棟の下に現れており、以前は同じ高さの位置にあったそれぞれの建物の高さが違っていることが一目で分かります。

「国内において学術的にも珍しいものです。断層跡について、整備基本計画策定委員会を設置しています。地元の方々の意見も交え、整備の議論がなされています」と町の学芸員の堤英介さん(45)が教えてくれました。断層跡の主のいない傾いた納屋の姿に、心がキリキリと痛みます。しかし、つらい爪痕が残した光景には、今後の災害の備えへの教訓も伝えられていました。



第五保育所の元気な年長組の園児たち。奥左は梅木美賀園長、右は担任の濱田めぐみ先生



断層の表出で2つの納屋の高さが違ってきます

## 散歩の終わりに

福田地区で出会った人たちの優しい笑顔に、心満たされた「わがまち散歩」でした。

「『広報ましき』を、毎月、楽しみにしとるばい」と声を掛けてくれた人や、親切に道案内をしてくれた人など、今回もうれしい出会いがありました。

風も少しづつ涼しくなり、散歩には過ごしやすい季節になりました。あなたの「小さな秋」を探しに、のんびりと出かけてみてはいかがでしょうか。



役場生涯学習課の学芸員、堤英介さん

